

小学校 第3学年 (後期)	題材名	音のひびきを大切にしてリコーダーをえんそうしよう	時間	6時間 +3時間
---------------------	-----	--------------------------	----	-------------

■題材の目標

ソプラノリコーダーの音色や音の響きに気を付けて演奏の仕方を工夫する。また、2つのパートでアンサンブルすることにより、互いの旋律や音色、伴奏を聴いて、美しいハーモニーを奏でることを目指す。

■学習指導要領との関連

- A 表現 (2) 器楽 ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。
- イ 次の(ア)及び(イ)について気付くこと。
- (ア) 曲想と音楽の構造との関わり
- (イ) 楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり
- ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。
- (ア) 範奏を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして演奏する技能
- (イ) 音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能
- (ウ) 互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能

【共通事項】音色、リズム、旋律、音の重なり、拍、フレーズ／反復、呼びかけとこたえ、変化

■ヤマハデジタル音楽教材「ソプラノリコーダー授業」を使用した指導計画(6時間+3時間)

※第四次は独立して取り組んでもよい

次数	時数	○学習内容・主な学習活動	教材曲	楽曲の使用音	使用するデジタル教材
第一次	第二時	○ソプラノリコーダーの復習をする。 ・1学期に学習した運指を確認する。 ・リコーダーの支え方、姿勢、息のつかい方、タンギングなど各ポイントを復習する。 ・本単元では音の響きを大切にしなが演奏できるよう、全員の音を1つに集める体験を通して児童への意識づけを行う。 ・1学期に学習した楽曲を演奏する。(一斉学習で、好きな楽曲を自由に復習するとよい)	※推奨 「あかね雲」 ・ 「森のぶどう会」	ソ・ラ・シ ・ ド・レ	【プレイ】 ※復習で使用する楽曲 【まなぶ】 ・リコーダーのささえ方① ・すわってえんそうする時のしせい ・息のつかい方 ・タンギング ・やってみよう!② 1点に音を集めて音合わせ
第二次	第二時	○「ド」「レ」「ミ」を学ぶ。 ・「ド」「レ」「ミ」の運指と低い音の息のつかい方を学び、リコーダーで実践する。 ・「口笛ふいて」の範奏を聴き、全員でゆっくりのテンポで演奏する。	「口笛ふいて」	ド・レ・ミ・ソ	【プレイ】 ・「口笛ふいて」 【まなぶ】 ・やってみよう!① 指あそび
	第三時	○グループで「口笛ふいて」を練習する。 ・「ド」「レ」「ミ」の運指や息のつかい方を復習する。 ・タブレット端末を使ってグループごとに「口笛ふいて」を練習する。 ・息のつかい方に注意しながら全員で「口笛ふいて」を演奏する。	「口笛ふいて」	ド・レ・ミ・ソ	【プレイ】 ・「口笛ふいて」

第二次	第四時	<p>○「ファ」を学ぶ。</p> <p>・「ファ」の運指を学ぶ。</p> <p>・タブレット端末を使ってグループごとに「地球外生命体と交信せよ」を練習する。</p> <p>・伴奏との掛け合いを意識しながら全員で「地球外生命体と交信せよ」を演奏する。</p>	「地球外生命体と交信せよ」	ド・レ・ミ・ファ・ソ	【プレイ】 ・「地球外生命体と交信せよ」
第三次	第五時	<p>○発表会用の楽曲「茶つみ」を練習する。</p> <p>・「茶つみ」の範奏を聴く。(範奏に合わせて歌ってもよい)</p> <p>・リコーダーで気持ちを表現する例を示し、発表会で「茶つみ」をどう表現するのか各グループで工夫するように促す。</p> <p>・タブレット端末を使ってグループごとに「茶つみ」を練習する。</p>	「茶つみ」	—	【プレイ】 ・「茶つみ」 【まなぶ】 ・やってみよう! ③ リコーダーで気持ちを表そう
	第六時	<p>○「茶つみ」の演奏を発表する。</p> <p>・音を合わせて響きを大切にしながら演奏できるよう、全員の音を1つに集める練習をする。</p> <p>・タブレット端末を使ってグループごとに仕上げの練習をする。</p> <p>・グループごとに成果発表をする。</p> <p>・「茶つみ」を全員で演奏する。</p>			【プレイ】 ・「茶つみ」 【まなぶ】 ・やってみよう! ② 1点に音を集めて音合わせ
※第四次	第七時	<p>○発表会用の楽曲「赤いやねの家」の主旋律を練習する。</p> <p>・パートが重なり合って響き合う音を意識して、「赤いやねの家」のアンサンブルの範奏を聴く。</p> <p>・本時に学習するパート(主旋律・S1)の範奏を聴く。</p> <p>・タブレット端末を使ってグループごとに「赤いやねの家」の主旋律を練習する。</p> <p>・全員で「赤いやねの家」を演奏する。</p>	「赤いやねの家」	—	【プレイ】 ・「赤いやねの家」
	第八時	<p>○発表会用の楽曲「赤いやねの家」を2パートに分かれて練習する。</p> <p>・新たに学習するパート(副旋律・S2)の範奏を聴く。</p> <p>・タブレット端末を使って各自、演奏したいパートを選択し、練習する。</p> <p>・全員で「赤いやねの家」を演奏する。(練習したパートを演奏)</p>			【プレイ】 ・「赤いやねの家」
	第九時	<p>○「赤いやねの家」の演奏を発表する。</p> <p>・タブレット端末を使ってグループごとに仕上げの練習をする。</p> <p>・グループごとに成果発表をする。</p> <p>・「赤いやねの家」を全員で演奏する。</p>			【プレイ】 ・「赤いやねの家」

[授業の展開例] 第一時

教材名	※1学期に学習した楽曲を適宜選んでご活用ください
------------	--------------------------

- ・教材観：選曲した楽曲による
- ・本時のめあて：音を合わせてリコーダーをえんそうしよう

過程	主な学習活動と教師の働きかけ	デジタル教材	留意点
45分 導入 15分 展開 25分 まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ■単元のめあてを確認する。 ■本時の学習のめあてを確認する。 ■デジタル教材を使って、1学期に学んだソプラノリコーダーについて復習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーの支え方、姿勢、息のつかい方、タンギング ・1学期に学んだ運指 	<ul style="list-style-type: none"> ・「まなぶ」の中から適宜選んで再生 ・プレイ - 「あかね雲」 ⇒解説の画面のまとめを提示 ※「ソ」「ラ」「シ」「ド」「レ」の運指の復習に適している 	★教師用 PC(又はタブレット端末)を大型モニターとつないで提示。
	<ul style="list-style-type: none"> ■デジタル教材で音を1つに集めて演奏する方法を学ぶ。 ■デジタル教材の視聴後はまとめ画像を使ってポイントをおさらいし、教材の中で示されていた練習方法を実践する。 ■デジタル教材に合わせて1学期に学習した楽曲を適宜選んで演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まなぶ - 【やってみよう!②】 1点に音を集めて音合わせ ・まなぶ - 【やってみよう!②】 1点に音を集めて音合わせ ⇒まとめを提示 ・プレイ - 1~16曲目の中から学習した曲を適宜選ぶ。 	★ Shidousha_data.pdf の P. 25 授業ポイントの 1 を参照。
	<ul style="list-style-type: none"> ■全員で「あかね雲」、「森のぶとう会」を演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレイ - 「あかね雲」 ⇒楽譜の画面 ・プレイ - 「森のぶとう会」 ⇒楽譜の画面 	

【授業の展開例】 第二時

教材名	「口笛ふいて」（作曲：栗原正己）
-----	------------------

- ・教材観：「ド」「レ」「ミ」「ソ」の4音を使う楽曲。リズムカルな伴奏と軽快な旋律が特徴的で、歯切れのよい旋律を演奏するために、低音に適した息のつかい方が自然と意識できる教材である。
- ・本時のめあて：息のつかい方に気をつけて、「ド」「レ」「ミ」を練習しよう

過程	主な学習活動と教師の働きかけ	デジタル教材	留意点
導入 10分	<p>■前時の復習として、音を1つに集めることを意識しながら、「あかね雲」を全員で演奏する。</p> <p>■本時の学習のめあてを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プレイ - 「あかね雲」 ⇒楽譜の画面 	<p>★教師用PC（又はタブレット端末）を大型モニターとつないで提示。</p>
45分 展開 20分	<p>■デジタル教材で「ド」「レ」「ミ」の運指と低い音の息のつかい方を学ぶ。</p> <p>■デジタル教材の視聴後はまとめ画像を使ってポイントをおさらいし、以下の活動を実践する。</p> <p>①「ド」「レ」「ミ」の運指を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フットピースの位置調整 ・小指や薬指が動きづらい指であることを意識し、スムーズに動かせるよう練習を促す <p>②低い音の息のつかい方を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タンギング「to」 ・息の確認方法を提示（指に息を吹きかけて「温度」や「スピード感」を確かめる⇒あたたかい、ゆっくり） <p>■リレー式に音を出して、児童の実態を把握する。（例：指定の1音を吹く／「ミ・レ・ド」など1音ずつ吹く／「ド・ド・ド」など3音ずつ吹く）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プレイ - 「口笛ふいて」 ⇒解説の画面 ・プレイ - 「口笛ふいて」 ⇒解説の画面のまとめを提示 ・まなぶ - 【やってみよう！①】 指あそび ※必要に応じて活用 	<p>★奏者は1人または少人数で、など工夫するとよい。</p>
まとめ 15分	<p>■「口笛ふいて」の節奏をデジタル教材で視聴する。</p> <p>■「口笛ふいて」をゆっくりのテンポで何回か斉奏する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プレイ - 「口笛ふいて」 ⇒お手本の画面 ・プレイ - 「口笛ふいて」 ⇒楽譜の画面 ※テンポ 70%程度 	

【授業の展開例】 第三時

教材名	「口笛ふいて」（作曲：栗原正己）
-----	------------------

・本時のめあて：おたがいの音をききながら、グループでくふうして練習しよう

過程	主な学習活動と教師の働きかけ	デジタル教材	留意点
45分	<p>導入 10分</p> <p>■本時の学習のめあてを確認する。</p> <p>■前時の復習として、「ド」「レ」「ミ」の運指と息のつかい方（タンギング「to」）を確認する。</p> <p>■前時の復習として、「口笛ふいて」を全員で演奏する。</p>	<p>・プレイ - 「口笛ふいて」 ⇒解説の画面</p> <p>・まなぶ - 【やってみよう！①】 指あそび ※必要に応じて活用</p> <p>・プレイ - 「口笛ふいて」 ⇒楽譜の画面</p>	<p>★教師用PC（又はタブレット端末）を大型モニターとつないで提示。</p>
	<p>展開 25分</p> <p>■グループ（3～4人）に分かれて、各自タブレット端末のデジタル教材を使って練習する。</p>	<p>・プレイ - 「口笛ふいて」</p>	<p>★1学期に周知した「タブレット端末を利用する際の約束事」を復習しておくとい。</p>
	<p>まとめ 10分</p> <p>■各グループからタブレット端末を回収する。</p> <p>■全員で「口笛ふいて」を演奏する。</p>	<p>・プレイ - 「口笛ふいて」 ⇒楽譜の画面</p>	

【授業の展開例】 第四時

教材名	「地球外生命体と交信せよ」（作曲：栗原正己）
------------	------------------------

- ・教材観：「ド」「レ」「ミ」「ファ」「ソ」の5音で演奏できる楽曲。「呼びかけとこたえ」の表現が盛り込まれており、伴奏と旋律の掛け合いを楽しめる教材である。
- ・本時のめあて：ばんそうの音をよくきいて、「ファ」を練習しよう

過程	主な学習活動と教師の働きかけ	デジタル教材	留意点
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ■前時の復習として、「口笛ふいて」を全員で演奏する。 ■本時の学習のめあてを確認する。 ■「地球外生命体と交信せよ」の範奏をデジタル教材で視聴する。デジタル教材の視聴後は、伴奏とリコーダーが掛け合いになっている曲であることを説明し、伴奏音をよく聴いて演奏するよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレイ - 「口笛ふいて」 ⇒楽譜の画面 ・プレイ - 「地球外生命体と交信せよ」 ⇒お手本の画面 ⇒楽譜の画面 	<ul style="list-style-type: none"> ★教師用PC（又はタブレット端末）を大型モニターとつないで提示。
45分 展開 25分	<ul style="list-style-type: none"> ■デジタル教材で「ファ」の運指を学ぶ。 ■デジタル教材の視聴後はまとめ画像を使ってポイントをおさらいし、リコーダーで、「ファ・ソ」「ソ・ファ」「ファ・ド」の練習をする。 ■グループに分かれて、各自タブレット端末のデジタル教材を使って練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレイ - 「地球外生命体と交信せよ」 ⇒解説の画面 ・プレイ - 「地球外生命体と交信せよ」 ⇒解説の画面のまとめを提示 ・プレイ - 「地球外生命体と交信せよ」 	<ul style="list-style-type: none"> ★バロック式のリコーダーで学習している場合には、「設定」ボタンから「リコーダーの種類」を「バロック式」に設定する。
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> ■各グループからタブレット端末を回収する。 ■全員で「地球外生命体と交信せよ」を演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレイ - 「地球外生命体と交信せよ」 ⇒楽譜の画面 	

[授業の展開例] 第五時

教材名	「茶つみ」(文部省唱歌)
-----	--------------

- ・教材観：「レ」「ミ」「ソ」「ラ」「シ」「レ」の6音で演奏できる楽曲。小学3年生の歌唱共通教材にも定められているので、歌唱と組み合わせてもよい。他にも手あそびを取り入れるなど、学習の仕方を工夫できる教材。
- ・本時のめあて：音のひびきに気をつけて、グループで「茶つみ」を練習しよう

過程	主な学習活動と教師の働きかけ	デジタル教材	留意点
45分	<p>導入 10分</p> <ul style="list-style-type: none"> ■前時の復習として、「地球外生命体と交信せよ」を全員で演奏する。 ■本時の学習のめあてを確認する。 ■次回授業の活動内容（グループごとに演奏発表）をアナウンスする。 ■「茶つみ」の解説と範奏をデジタル教材で視聴する。（「茶つみ」をすでに学習していたら、範奏に合わせて歌ってもよい） 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレイ-「地球外生命体と交信せよ」 ⇒楽譜の画面 ・プレイ-「茶つみ」 ⇒解説の画面 ⇒楽譜の画面 	<p>★教師用PC（又はタブレット端末）を大型モニターとつないで提示。</p>
	<p>展開 25分</p> <ul style="list-style-type: none"> ■デジタル教材で音の表現方法について学習し、「茶つみ」の表現方法の参考にさせる。 ■グループごとにタブレット端末のデジタル教材を使いながら、以下の活動に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・演奏する楽曲の曲想を感じ取り、特徴をまとめる ・どうやって演奏したいか、グループでまとめる ・グループ全員が演奏できるようになるために練習方法を工夫する 	<ul style="list-style-type: none"> ・まなぶ-【やってみよう!③】 リコーダーで気持ちを表そう ・プレイ-「茶つみ」 	<p>★付属のワークシートを活用するとよい。</p>
	<p>まとめ 10分</p> <ul style="list-style-type: none"> ■各グループからタブレット端末を回収する。 ■全員で「茶つみ」をゆっくりのテンポで演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレイ-「茶つみ」 ⇒楽譜の画面 ※テンポ 80%程度 	

【授業の展開例】 第六時

教材名	「茶つみ」(文部省唱歌)
-----	--------------

・本時のめあて：音を合わせてグループごとに「茶つみ」を発表しよう

過程	主な学習活動と教師の働きかけ	デジタル教材	留意点
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ■デジタル教材で、音を1つに集めて演奏する方法を復習し、教材の中で示されていた練習方法を実践する。 ■前時の復習として、「茶つみ」を全員で演奏する。 ■本時の学習のめあてを確認し、本時の授業の流れ(進行)をアナウンスする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まなぶ - 【やってみよう!②】 1点に音を集めて音合わせ ・プレイ - 「茶つみ」 ⇒楽譜の画面 	<ul style="list-style-type: none"> ★教師用PC(又はタブレット端末)を大型モニターとつないで提示。 ★音を1点に集めるイメージを児童に意識させ、発表会でもグループで音の響きを合わせて演奏できるよう働きかけるとよい。
45分 展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> ■グループごとにタブレット端末のデジタル教材を使いながら、仕上げの練習をする。 ■各グループからタブレット端末を回収する。 ■グループごとに「茶つみ」を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・発表するグループは曲想を説明し、演奏する ・他のグループの演奏を聴き、ワークシートに感想を記入する 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレイ - 「茶つみ」 	<ul style="list-style-type: none"> ★発表時には各グループから指定されたテンポに変更して伴奏を再生させるとよい。
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ■全員で「茶つみ」を演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレイ - 「茶つみ」 ⇒楽譜の画面 	

【授業の展開例】 第七時

教材名	「赤いやねの家」(作曲：上柴はじめ)
-----	--------------------

- ・教材観：曲の情景を想像しながら演奏させたいアンサンブルの楽曲。3拍子の拍の流れやフレーズから曲想を味わえる教材である。
- ・本時のめあて：音色に気をつけて「赤いやねの家」のS1パートを練習しよう

過程	主な学習活動と教師の働きかけ	デジタル教材	留意点	
45分	導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ■本時の学習のめあてを確認する。 ■「赤いやねの家」をデジタル教材で視聴する。 ■今後の授業の活動内容と最終目標（グループごとに演奏発表）をアナウンスする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレイ - 「赤いやねの家」 ⇒解説の画面 ⇒楽譜の画面 ※アンサンブル音源を再生する 	★教師用PC(又はタブレット端末)を大型モニターとつないで提示。
	展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> ■「赤いやねの家」をデジタル教材で視聴し、主旋律を学ぶ。 ■グループごとにタブレット端末のデジタル教材を使いながら、以下の活動に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・演奏する楽曲の曲想を感じ取り、特徴をまとめる ・どうやって演奏したいか、グループでまとめる ・グループ全員が演奏できるようになるために練習方法を工夫する 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレイ - 「赤いやねの家」 ⇒楽譜の画面 ※主旋律(S1)の音源を再生する ・プレイ - 「赤いやねの家」 	★付属のワークシートを活用するとよい。
	まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ■各グループからタブレット端末を回収する。 ■全員で「赤いやねの家」の主旋律(S1)を演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレイ - 「赤いやねの家」 ⇒楽譜の画面 ※テンポ 80%程度 	

【授業の展開例】 第八時

教材名	「赤いやねの家」(作曲：上柴はじめ)
-----	--------------------

・本時のめあて：音の重なりを感じながら「赤いやねの家」を練習しよう

過程	主な学習活動と教師の働きかけ	デジタル教材	留意点
45分	<p>導入 10分</p> <p>■前時の復習として、「赤いやねの家」の主旋律(S1)を全員で演奏する。</p> <p>■本時の学習のめあてを確認する。</p> <p>■「赤いやねの家」をデジタル教材で視聴し、副旋律(S2)を学ぶ。</p>	<p>・プレイ - 「赤いやねの家」 ⇒楽譜の画面 ※主旋律(S1)の音源を再生する</p> <p>・プレイ - 「赤いやねの家」 ⇒楽譜の画面 ※副旋律(S2)の音源を再生する</p>	<p>★教師用PC(又はタブレット端末)を大型モニターとつないで提示。</p>
	<p>展開 30分</p> <p>■タブレット端末を主旋律(S1)の学習用と副旋律(S2)の学習用の2つに分けて設置する。 児童が練習したいパートを選択し、該当するタブレット端末設置場所へ移動して練習をする。</p> <p>※画面を「楽譜」にして、右上のボタンからを選ぶと、アンサンブル譜が表示されるので、2つのパートが重なり合う音の響きを感じながら練習に取り組むことができる。</p>	<p>・プレイ - 「赤いやねの家」</p>	
	<p>まとめ 5分</p> <p>■全員で「赤いやねの家」を演奏する。 (自分が練習したパートをそれぞれ演奏する)</p>	<p>・プレイ - 「赤いやねの家」 ⇒楽譜の画面 ※アンサンブル譜を表示</p>	

【授業の展開例】 第九時

教材名	「赤いやねの家」(作曲：上柴はじめ)
-----	--------------------

・本時のめあて：音の重なりを楽しんで発表会をしよう

過程	主な学習活動と教師の働きかけ	デジタル教材	留意点
45分	<p>導入 10分</p> <p>■前時の復習として、「赤いやねの家」を演奏する。 (自分が練習したパートをそれぞれ演奏する)</p> <p>■本時の学習のめあてを確認し、本時の授業の流れ(進行)もアナウンスする。</p>	<p>・プレイ - 「赤いやねの家」 ⇒楽譜の画面 ※アンサンブル譜を表示</p>	<p>★教師用PC(又はタブレット端末)を大型モニターとつないで提示。</p>
	<p>展開 30分</p> <p>■グループごとにタブレット端末のデジタル教材を使いながら、仕上げの練習をする。</p> <p>■各グループからタブレット端末を回収する。</p> <p>■グループごとに「赤いやねの家」を発表する。(発表方法はS1とS2を練習した児童の人数の状況にあわせて適宜工夫する)</p> <p>・演奏するグループは曲想を説明し、演奏する</p> <p>・他のグループの演奏を聴き、ワークシートに感想を記入する</p>	<p>・プレイ - 「赤いやねの家」</p>	<p>★発表時には各グループから指定されたテンポに変更して伴奏を再生させるとよい。</p>
	<p>まとめ 5分</p> <p>■全員で「赤いやねの家」を演奏する。 (自分が選択したパートをそれぞれ演奏する)</p>	<p>・プレイ - 「赤いやねの家」 ⇒楽譜の画面 ※アンサンブル譜を表示</p>	